

カエルキンバエ

ハエ目キンバエ科

石川県カテゴリー

絶滅危惧Ⅰ類

Lucilia (Bufolucilia) chini Fan

国カテゴリー

情報不足

選定理由

本種は1950～1960年代に県内で多く見られたが、現在は確認記録がない。

形態

体長5～7mmで、金緑色の小型キンバエ。腹背第3節に1対の直立剛毛があり、翅の前縁脈基部片は黒色で、亜前縁脈下部片に黒色毛をもたない。

国内分布

1960年代までは、栃木県、茨城県、千葉県、東京都、神奈川県、石川県、福井県、愛知県、京都府で文献記録や残存標本がある。その後は全国的に生息確認がされなかったが、2000年代になってから青森県で生息地が発見されている。

県内分布

1952年ごろは、河北潟周辺から金沢市大野町付近の農道にたくさん生息していたと記録され、能美市（旧寺井町）でも採集されている。しかし、その後は見出されなくなった。

生態

成虫発生時期は5～10月で、年2回発生といわれる。欧州などの本種の近似種は、その幼虫がカエルの目や鼻に寄生することが知られているが、本種はカエルに寄生するかどうか不明である。

生息地の条件

これまでの採集記録から見ると、本種は池、潟、水田付近に多いように思われる。

生存の危機

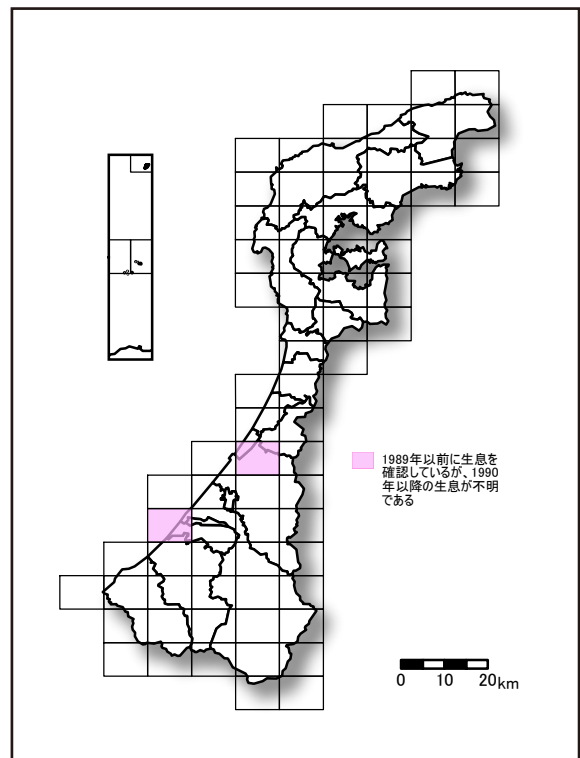
かつて水田で多産したカエルが、ほ場整備や農業の影響で激減した時期と同じ頃に、本種も姿を消したように考えられる。低地の水田から本種が消滅したが、丘陵地・低山間地などの池・湿地・水田付近などや能登半島で本種が残存していないか探索を続ける必要がある。(A)

参考文献

- 堀 克重 1955. 日本産蠅族の重要群の形態学的研究V. 日本産黒蠅科の数種について. 日本生物地理学会会報, 16～19: 230-234.
Kurahashi, H. 1966. Studies on the calypterate muscoid flies from Japan. V. Revision of the tribe Lucilini (Diptera, Calliphoridae). Sci. Rep. Kanazawa Univ., 11 (2):105-124.
徳本 洋 2000. カエルキンバエを探そうー研究史と種の特長解説. はなあぶ, (10) : 35-41.



写真提供者: 国立感染症研究所



県内の分布